

『紅葉を訪ねて： 真紅のコキア』

国営ひたち海浜公園散策報告 (2021年10月20日(水))

10月に入ってやっと「緊急事態宣言」も解除され、一日の新型コロナ感染者数が2桁まで減ってきた。それで「ひたち海浜公園」に“真紅のコキア”を見に行こうと考えた。NHKのニュースで紹介される紅葉の情報を基に、19日に決めたがなかなか天候が落ち着かない、最後は気象情報をもとに20日(水)の決行となった。伊藤様、荻野様、神田様のご賛同を得て、陽田の4名で出かけた。

20日は“晴れ女”の参加も得ていたので、抜けるような快晴となった。9時30分、勝田駅前集合にし、「入園券付1日フリー切符」でしかも“シルバー割引”“付きを¥850で購入する。並んでいる人を見ると中国語(多分)を話している若い女性グループがいる、まだ海外旅行者は殆ど入ってきていない筈なので、ずっと国内に住んでいる人達だろうか。茨城交通は臨時直通便を出しており、早速バスに乗り、11時少し前に「国営ひたち海浜公園」に到着した。今日は平日だが入場者は多い。

入園して早速案内地図をゲット、直ぐに「コキア」を植えてある「みはらしの丘」を目指す。途中の“茨城名産”の干し芋や、モンブランのような栗の菓子などの売店では行列ができていて、もう購入したそうな方もおられたが、荷物になるので最後にしていただき、「コキア」を目指す。10分ほど「みはらしの丘」の下に到着。丘の手前には“茨城そば”の畑があり、白い花を満開に咲かせている。丘のコキアの間を縫う道は人人人であった。

丘一面に「真紅のコキア」が植えられていて、なかなか圧巻で見応えがある。青空の下で紅葉した「コキア」を見るのは“素晴らしい”の一語だった。コキアの周りには赤、白色などのコスモスが植えられた花壇が広がっている。犬を連れた人が以前来た時より多いように感じた、また坂道を乳母車を押す人もいる、

この園の最高峰の丘(海拔58m)の頂上からは、筑波山をはじめ日光の連山なども望見できた。丘の向うの那珂湊港や東海村原子力発電所などを見た後、麓の「みはらし広場」(屋台店がある)に下り、沢山並ぶベンチに座って昼食を摂る。園内を周回する“トロッコ列車”では乗車待ちのお年寄りなどの行列ができていた。この人達は観光バスで来たのであろう。昼食後は陸橋を渡って高速道路に隔てられた公園の南半分地域に向かう。

こちらには広い芝生の広場があり、そのまた先には子供の遊園地なども広がっている。先ず見えてきたのが芝生の向うの大観覧車だ。「キバナコスモス」は今年は少し育ちが悪いようだが、鮮やかなオレンジ色が映える。草っ原のあちこちには「パンパスグラス」(ススキのオバケ)の株が生えている。また小型(1~2人用)テントを張って休んでいる家族連れもいた。草原の向うには黄色の「コスモス：レモンブライト」のコスモスが咲いていた。

庭園の手入れをしていた庭師の人に訊いたら、ここのコキアは特別に丸くなるように改良した種類で、「畑のキャビア：とんぶり」とは異なるもので、ホウキの形状にもならないそうです。

13時半を過ぎに西ロゲートに戻る。帰りも長い行列を1台待って、臨時直通バスで勝田駅に戻った。皆様、早速駅構内の売店で茨城名物「干し芋」などをゲットし、14時24分発の始発普通電車に乗る。最後尾近くの“ボックス席”に乗車、約2時間の間、アルコール抜きの“反省会”を開いたのであった。議題は晴天のもとでの「真紅のコキア」は良かった、来年は「ネモフィラ」を見に来たいなど、また忘年山行について、日帰りとなると、往復にあまり時間を取られない暖かい南の方になるだろう、箱根、真鶴半島、三浦半島などになるろうか、等々。電車は17時過ぎに日暮里駅に到着し、車内で流れ解散した。

以上 陽田



「真紅のコキア」





「真紅のコキア」



「緑色のコキア」 (2019-08-29 撮影)

